

MITSUMI



三菱電機株式会社

CSR REPORT

2011

**MITSUMI Electric Group
Corporate Social Responsibility
Report**

編集方針

Editorial Policy

「ミツミ電機グループCSRレポート2011」の 編集にあたって

本レポートは、ミツミ電機グループ(以下、ミツミ)の事業活動におけるCSR(Corporate Social Responsibility:社会的責任)への取り組みについてまとめたものです。ミツミのCSR活動をステークホルダーの皆様へご紹介し、皆様との信頼関係をより深めていくことを目的に、和文版と英文版にて毎年発行しています。

また、「持続可能な社会の実現」に向けたミツミの取り組みをご理解頂くため、環境活動報告書の内容も盛り込んでいます。

本レポートを通じ、ミツミのCSR活動に対するステークホルダーの皆様のご理解を深めていただければ幸いです。

■報告対象期間

2010年度

(2010年4月1日～2011年3月31日)を中心に作成

■報告対象組織

ミツミ電機グループ

(ミツミ電機株式会社および国内外の

事業所・関係会社)

■WEB掲載情報

<http://www.mitsumi.co.jp/csr/index.html>

■お問い合わせ先

本社総務部

CSR推進委員会事務局

TEL:042-310-5160

FAX:042-310-5168

■目次

編集方針・目次 …… 2

ミツミ電機会社概要 …… 3

Corporate Message

トップメッセージ …… 4

社是・経営理念 …… 6

経営方針・事業構成 …… 7

事業構成 …… 8

CSR Management

コーポレートガバナンス …… 10

コンプライアンス …… 11

ミツミ行動規範 …… 12

リスクマネジメント …… 13

お客様とミツミ …… 14

仕入先様とミツミ …… 15

株主・投資家様とミツミ …… 16

地域社会とミツミ …… 17

従業員とミツミ …… 18

Environment Report

環境方針 …… 20

環境マネジメントシステム …… 21

マネジメント体制 …… 22

ISO 14001 認証取得状況/環境監査 …… 23

環境教育/中期目標と達成状況 …… 24

環境会計 …… 25

2010年度の事業活動と環境負荷の概要 …… 26

環境配慮製品 …… 27

化学物質管理 …… 28

環境負荷の削減 …… 30

環境コミュニケーション …… 33

各事業所における環境保護活動 …… 34

サイトデータ …… 36

MITSUMI World Network

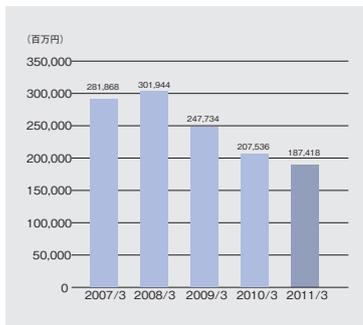
ミツミ電機のワールドネットワーク …… 38

ミツミ電機会社概要

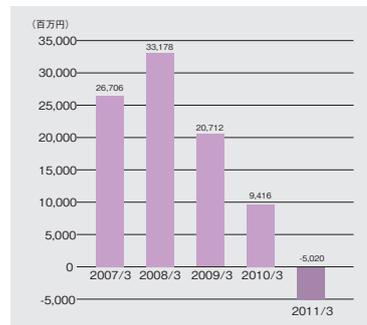
MITSUMI ELECTRIC Company Profile

■会社基本情報(2011年3月31日現在)

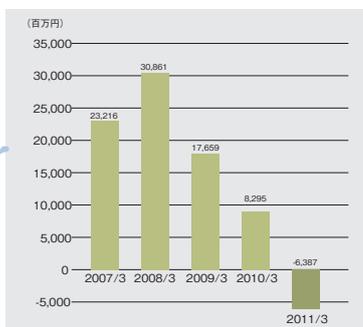
商号 ミツミ電機株式会社
設立 1954年1月
所在地 本社／東京都多摩市鶴牧
 2丁目11番地2
 TEL:042-310-5333(大代表)
 FAX:042-310-5168
資本金 398億9,025万794円
代表者 代表取締役社長 森部 茂
従業員数 連結:40,837人
売上高 連結:1,874億1,800万円
 2011年3月期決算



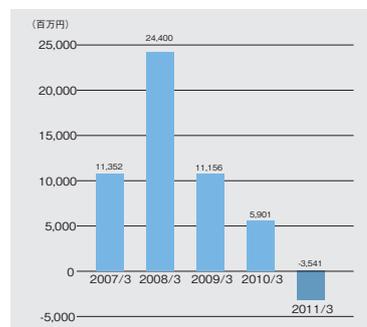
売上高(連結)



営業利益(連結)



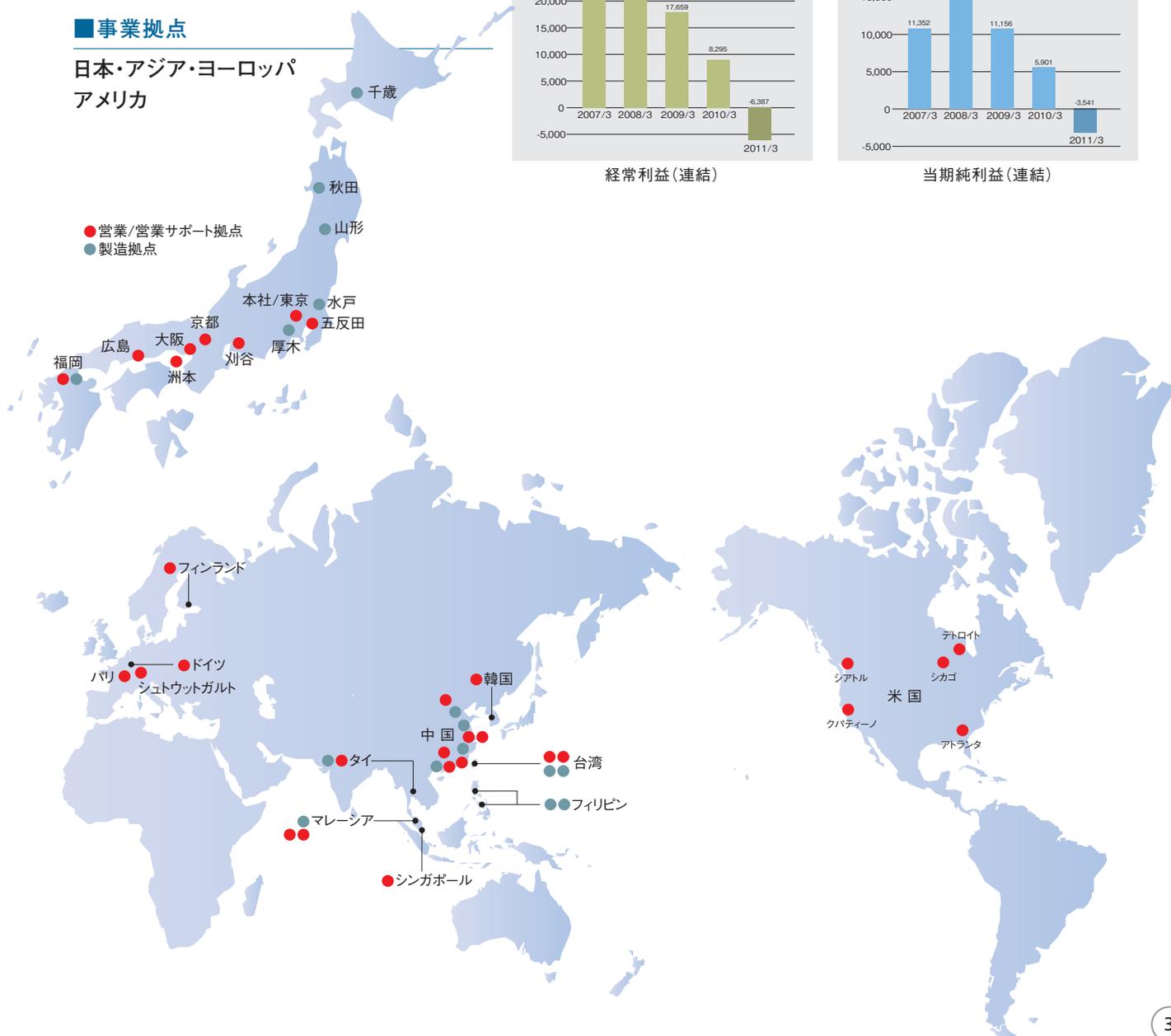
経常利益(連結)



当期純利益(連結)

■事業拠点

日本・アジア・ヨーロッパ
アメリカ



●営業/営業サポート拠点
●製造拠点

トップメッセージ

Top Message

**先進の技術力、高い創造力、そして、真摯で公正な企業姿勢。
全世界の人々に貢献し、未来への豊かな発展を支えています。**

東日本大震災に関するご報告

2011年3月11日に発生しました東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。また、被災をされた全ての皆様に心からお見舞い申し上げます。ミツミグループ一同、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

東日本大震災の発生に際して、ミツミは震災直後に本社に対策本部を設置し、被害状況の確認や社員の安否確認、また被災地への義援金の提供などを行ってまいりました。当社の一部の拠点は被災しましたが、幸いにも人的被害もなく早期に復旧することができました。

震災以降、政府からの電力使用制限を受け、当社ではオフィスの照明の一部消灯、空調の設定温度・運転時間の変更、エレベーターの一部運転停止、クールビズ適用期間の拡大などの節電対策を行ってまいりました。また、当社ポータルサイトで就業時間中の電気使用量を閲覧できるサイトを作り、全社員が電気使用量を把握することによる節電への意識付けを行ってまいりました。



持続可能な社会の実現に向けて

世界に目を向けると、世界金融危機によって急速に悪化した世界経済は、アジアを中心とした新興国の経済成長に支えられ、緩やかに回復しつつあります。このように新興国が急速に経済成長を続けている中で、先進国と新興国との間で環境問題をめぐる対立が顕在化しており、企業には、環境保全と経済成長の両立が強く求められております。

持続可能な社会を実現するために、ミツミは環境マネジメントシステムに基づく環境保全活動を継続実施しており、CO₂排出量の削減・廃棄物総排出量の削減・再資源化率の向上について目標を設定し、全社で取り組みを行っております。また、東日本大震災以後、日本のエネルギー政策について見直しを求める声が高まりつつあります。企業においてはCO₂排出量の抑制、省エネ活動などが今まで以上に求められると考えております。ミツミは、今までも全社でCO₂排出量の削減、省エネ活動に取り組んでまいりましたが、これからも絶えず改善を続け、取り組みを進めてまいります。

現在、企業が取り組むべき環境問題は、温室効果ガスの削減・省資源・省エネに加え、生物多様性などが加わり、企業に与えられた課題は多様化・複雑化が進んでおります。当社はこれらの問題の一つ、一つ真剣に取り組んでまいります。

社会に貢献し、世界に信頼される企業として

社会環境は、国際化や情報化が加速度的に進んでおり、そのスピードは速くなる一方です。ステークホルダーの皆様のご期待に応え続けていくためには、機敏な対応力が必要になってくると考えております。

当社は、多様化複雑化が進む社会の中で、今後もより一層ステークホルダーの皆様のご期待に応え、社会に貢献し信頼される企業であり続けるよう、努めてまいります。今後ご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 森部 茂



社是・経営理念

Corporate Mission, Business Philosophy

社 是

美しい親和
美しい製品
美しい取引

1954年(昭和29年)に創業した当社の前身「三美(みつみ)電機製作所」。その社名の「三美」には、「美しい親和」、「美しい製品」、「美しい取引」の三つの理念が込められ、わが社の社是となっています。「美しさ」は、清らかさ、正しさ、誠実さをも表し、環境を守り、ステークホルダーとの豊かな協調へとつながっていきます。これらの三つの“美しさ”を守り通す精神は、我々のCSR活動の隅々にまで貫かれています。

経営理念

わが社は、電子部品の総合メーカーとして
また、世界のミツミとして、
たゆみなき成長発展を続け、
電子部品を通じて全世界の人々に貢献する

エレクトロニクスの発展に寄与し、人々の生活の向上、幸せに貢献することを、創業以来の経営理念としてきました。数多くの技術革新によってエレクトロニクス環境は大きく変貌し続けていますが、ここに掲げた理念はいつまでも変わることなく、ミツミの事業活動の基盤となっています。

経営方針・事業構成

Management Policy, Business Segments

**独自のコア技術を最大限に活用し、新製品開発力と市場対応力を強化。
成長分野に積極的に進出し、事業の拡大、収益力の向上に努めます。**

世界同時不況による厳しい事業環境の中、ミツミは、独自のコア技術を活用した高機能・高精度な新製品の開発を進め、収益性重視の事業展開に取り組んでまいりました。現在、環境・省エネルギー分野をはじめとする成長分野での新事業の創出を優先課題とし、事業の拡大、高収益体質への転換を進めています。また、地上波デジタル放送、無線通信、ネットワーク、アミューズメント等、ミツミが得意としていた事業領域へ経営資源・技術資源を重点的に投入し、より魅力ある新製品をタイムリーに供給できる体制を確立していきます。

総合電子部品メーカーとしての「確かな開発力」と、市場の変化に即応する「柔軟なものづくり力」を両輪に、ミツミは、さらなる売上拡大と収益力向上に努めます

半導体デバイス事業



アナログ系ICを中心に、デジタルAV機器や携帯電子機器など広範囲な製品向けの各種ICを製造。最近では、省電力ICや携帯機器のリチウムイオン電池向けのモジュールが高い評価を得ています。

光デバイス事業



長年の光ピックアップ開発で培ってきた光学技術、超精密加工技術を活かし、携帯電話やノートPC向けの高機能小型カメラモジュールの製造を行っています。

機構部品事業



コネクタ、コイル、スイッチ、モータ等、あらゆる電子機器が必要とする基礎部品を製造。中でも、携帯電話やデジタルカメラ等のモバイル製品向けの小型・薄型部品の開発に注力しています。

高周波部品事業



得意の高周波技術を生かした多彩な製品をラインナップ。デジタル放送用チューナやGPS・衛星放送用アンテナでは高いシェアを確保し、ワイヤレス通信モジュールでも業界屈指の技術力を誇っています。

電源部品事業



デジタルAV機器やモバイル機器等、数多くの機器向けのスイッチング電源関連製品を製造。携帯電話用ACアダプタでは高いシェアを誇り、液晶テレビ向けの超薄型電源等の新製品を次々と開発しています

情報通信機器事業

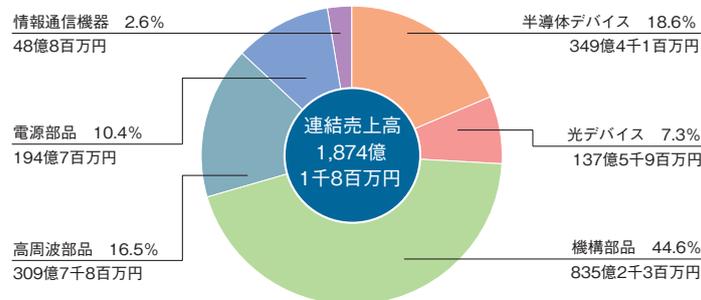


テープストレージ製品、キーボード、マウス等のインプットデバイス製品を製造しています。

事業構成

Business Segments

事業構成別売上高構成比



事業構成別売上高構成比(2011年3月連結)

トピックス(新製品)

■MMR901XA デジタル圧力センサ

近年、健康志向が高まっており、家庭で簡単に血圧を測定できるデジタル血圧計の需要が高まっております。新興国においても、その状況は顕著でありヘルスケア製品市場は増加の一途を辿っております。従来、デジタル血圧計に使用される圧力センサは、製造のバラツキなどを補正するための外付けアナログ調整回路が必要であり、また製品1台1台に対する調整工程が不可欠になっておりました。これらの問題を解決するため、MMR901XAはバラツキ補正パラメータを内蔵EEPROMに書き込み、ソフトウェアでセンサの調整が可能なデジタル出力圧力センサを開発しました。

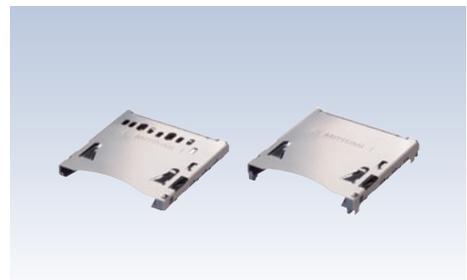


MMR901XA

■CIM-J35N/CIM-J44N SDメモリーカードコネクタ

SDメモリーカード搭載機器はより一層の広がりを見せております。デジタルカメラやビデオカメラなどへのSDメモリーカードの搭載は一般的となっており、また再生/表示機器であるテレビやレコーダー、ゲーム機器やカーナビゲーションなどへも搭載されるようになっております。

このような様々な機器でのSDメモリーカードの使用を想定し、従来機種よりも薄型・小スペースを実現し、また市場要求の強いノイズ対策や静電気対策をも配慮したCIM-J35N、CIM-J44Nを開発しました。



CIM-J35N/CIM-J44N

CSR報告書

Corporate Social Responsibility Report

コーポレートガバナンスと

ステークホルダーのマネジメント体制

CSR報告書・目次

コーポレートガバナンス	10
コンプライアンス	11
ミツミ行動規範	12
リスクマネジメント	13
お客様とミツミ	14
仕入先様とミツミ	15
株主・投資家様とミツミ	16
地域社会とミツミ	17
従業員とミツミ	18

コーポレートガバナンス

Corporate Governance

コーポレートガバナンスの強化によって、経営のスピードアップと効率化を促進し、健全性・透明性の確保、株主価値の向上に努力します。

ミツミは、刻々と変化を続けるグローバル市場において、業績の向上や事業拡大への対応を図り、企業価値の持続的な向上を行っていくため、経営の効率性・迅速性を高めると同時に、その健全性・透明性を確保することが重要であると考えています。

このような考えに基づき、ミツミは、スピーディかつ確かな経営判断が行える体制を構築すると共に経営監視機能の強化を図り、コーポレートガバナンスの充実に努めています。

■取締役会

取締役会は決議機関として、経営方針や業務運営上の重要事項についての最終決定を行うとともに、取締役の業務執行の監督も行っています。

■監査役会

監査役は、取締役等の職務の執行状況、ミツミ及び子会社の業務や財政状況の監査を行っています。また、取締役会等の重要な会議にも出席し、会計監査法人や内部監査室等とも連携し、業務の適法性・健全性・効率性などを監査しています。

ミツミでは、監査役4名のうち3名を社外監査役とし、社外からの経営のチェックを行っています。

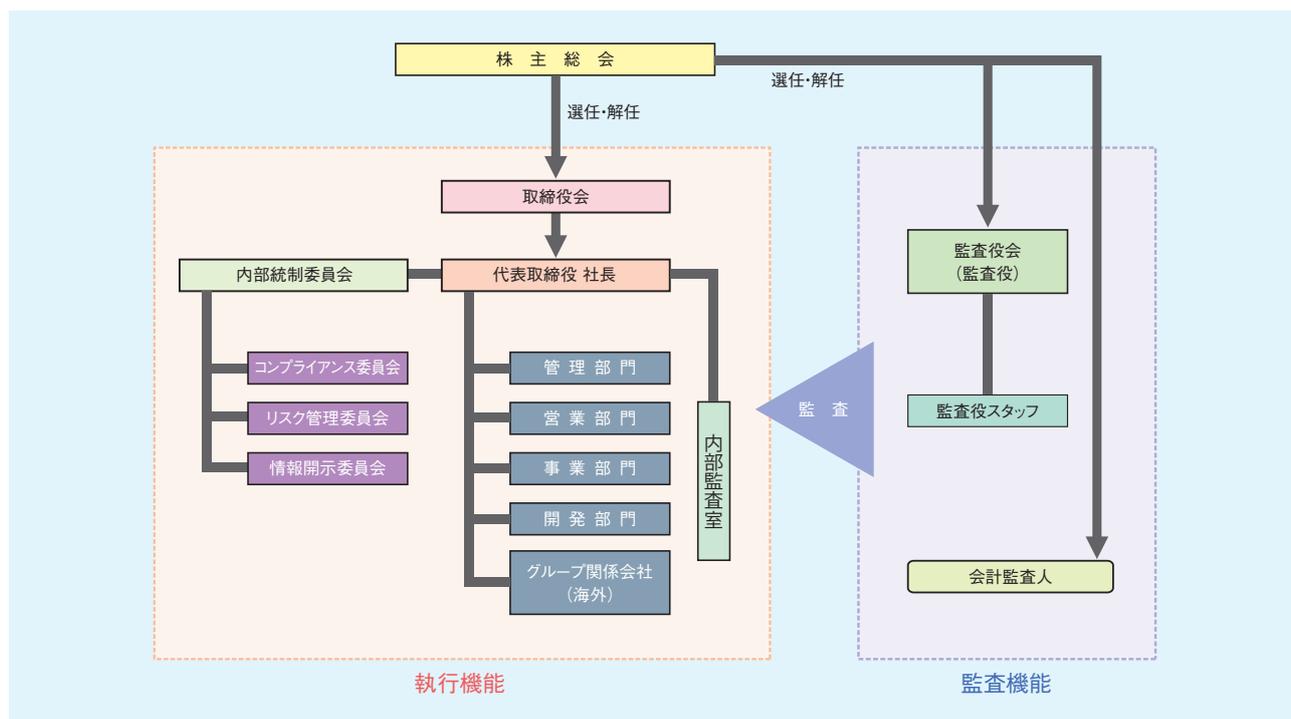
■内部監査室

内部監査室は、ミツミの各部門及び子会社において、業務管理や手続きの違法性、妥当性の実地監査を継続的に行っています。また、監査役との定期的な会合を持ち、情報や意見交換を通じ、監査品質の向上に努めています。

■内部統制

会社法及び金融商品取引法により求められる内部統制システムをミツミグループにおいて整備しています。業務の有効性・効率性を向上させ、財務内容の信頼性確保、事業活動に関わる法令等の遵守、資産の保全を図っています。

■コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス Compliance

ミツミは、コンプライアンス体制を構築し、グループ全体を挙げて法令・行動規範・規程の遵守、企業の社会的責任の遂行に取り組んでいます。コンプライアンス委員会は、担当取締役、総務部（法務グループ）、内部監査室等により組織され、業務分掌や職務権限等の社内規程を整備し、社内手続きに則って業務を執行する体制を整えています。

コンプライアンス意識の徹底

ミツミでは、法令や社内規程についてだけでなく、コンプライアンスの重要性についても社員に周知、徹底するため、教育活動の強化を進めています。

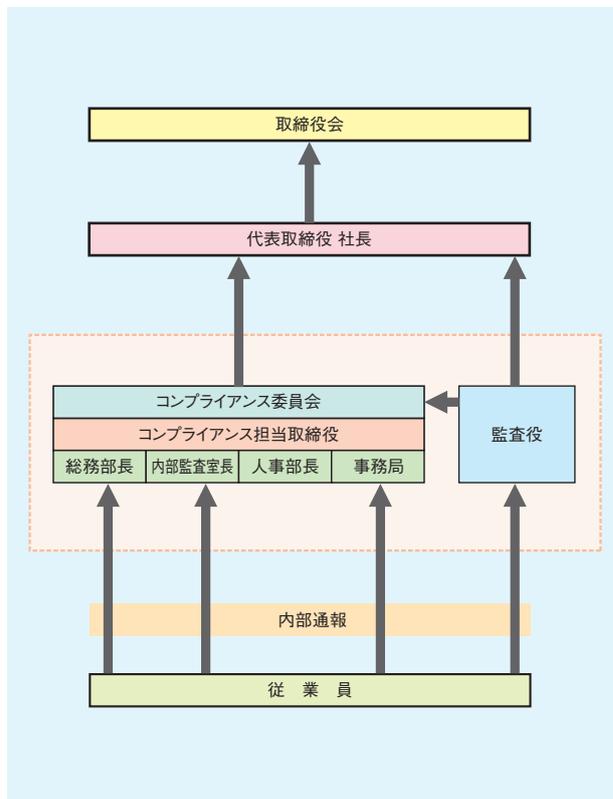
具体的には、基本的な内容を入社時に教育すると共に、上位等級に昇格したときや管理職に登用されたときなどに、それぞれの等級、役職に応じて、社内教育を実施しています。

また、特に重要な事項については、外部の専門家を招いて講習会を行うだけでなく、法務や内部統制の担当者が各拠点に出向いて説明会を行うなどの活動も実施しています。

知的財産の尊重

他社の知的財産権を侵害することは、ミツミ自身の事業に影響を及ぼすだけでなく、ステークホルダーの皆様にも多大なご迷惑をおかけすることになります。このような事態を起こさないよう、ミツミでは知的財産に関する規程を設け、それに基づく手続きを整備しています。

コンプライアンス推進体制



内部通報窓口制度

様々な法令や社内規程に反する行為をいち早く発見し、それらの違反・違法行為による影響を未然に防止するため、内部通報窓口を設置しています。さまざまな相談や通報を随時受け付け、寄せられた内容に応じた調査と対策を行い、必要な是正措置を迅速に実行できる体制を整えています。

また、内部通報窓口への通報者の保護にも万全を期し、秘密の厳守など通報者が不利益を被らないよう十二分に配慮しています。

ミツミ行動規範

MITSUMI Code of Conduct

ミツミが経営理念として掲げている「電子部品を通じて全世界の人々に貢献する」ことを実践していくためには、法令や倫理を遵守することが原則であることは言うまでもありません。そのためには、ミツミの一人ひとりが高い倫理観を持ち、公平かつ公正な企業活動を行っていくことが大前提となります。

ミツミでは、この考えのもとに一企業、一社員として心掛けておくべき事項を「ミツミ行動規範」としてまとめています。社是である「美しい親和、美しい製品、美しい取引」を達成すべく、役員・従業員のひとり一人が「ミツミ行動規範」を守り、常に法令や社内諸規程を遵守し、日常業務の遂行指針とするよう努めています。法令や企業倫理を確実に遵守し、社会のルール、良識に則った誠実な活動を行うことが、ステークホルダーの皆様や社会からの信頼を得ることにつながり、企業の持続的な発展、企業価値の向上につながっていくと考えています。



ミツミ行動規範小冊子
・日本語版・英語版
・中国語 簡体字版・中国語 繁体字版
・マレー語版

ミツミ行動規範(項目)

平成17年4月1日制定・施行

■適用対象会社

- ・ミツミ電機株式会社
- ・ミツミ電機グループ各社

■適用対象者

- ・ミツミ電機の役員および社員
- ・国内外の関係会社の役員および社員
- ・労働条件に係る部分以外は、派遣社員、パート、アルバイトにも適用

■規程項目

- ・ミツミ行動規範
- ・目的
- ・適用範囲
- ・報告義務
- ・懲罰
- ・遵守事項
- ・社内での関係
 - 人権の尊重
 - 政治・宗教活動
- ・社会との関係
 - 社会貢献
 - ステークホルダーの利益
 - 反社会勢力との決別
 - 環境保全
- ・取引先との関係
 - 顧客第一の姿勢
 - 接待・贈答
- ・株主・投資家との関係
 - 情報開示
 - インサイダー取引の禁止
- ・会社財産、情報の管理
 - 会社財産の保全
 - 知的財産権の保護
 - 会社の有する情報の管理
 - 個人情報保護

リスクマネジメント

Risk Management

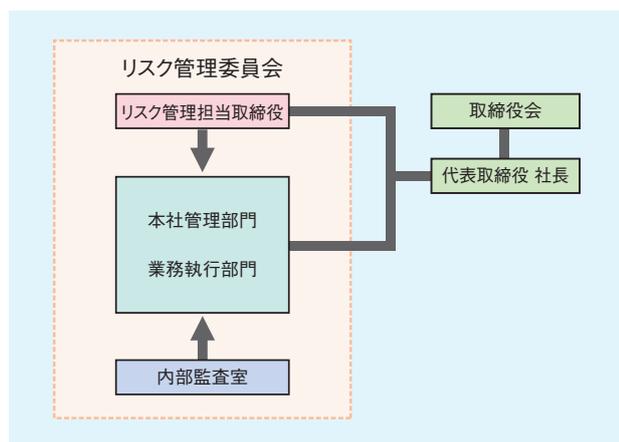
ミツミの危機管理体制の強化

近年、企業を取り巻くリスクは増大かつ多様化しており、コーポレートガバナンスの一環としてリスクの発生の予防と発生時の的確な対応が重要となっています。

ミツミでは、リスクの発生を防止すると共に、万が一リスクが発生した場合に迅速かつ的確な対応が行えるよう、リスク管理体制を整備しています。

具体的な活動としては、事業活動を行うにあたり想定されるリスクをすべて抽出した上で、対処の優先度を決定し、具体的な対策の実施・指導を行っています。

リスク管理体制



総合防災訓練
(千歳事業所)



安全運転講習会
(本社)

情報セキュリティ

保有する情報資産を厳重に管理することはもちろん、お客様、お取引先様に関する情報を守ることも、企業にとっての重大な使命であると、ミツミは深く認識しています。ミツミでは、すべての取締役と従業員が守らなくてはならない情報管理規程として「情報セキュリティポリシー」、及びその下位規程として「情報セキュリティ基本規程」を制定しています。

また、パソコンの持ち出し・持ち込みの管理、USBメモリーの社内標準品以外の使用禁止と使用方法の管理、パソコンへのモニタリング等の各種規程を制定し、その遵守に努めています。

自然災害

地震・台風・水害等の自然災害は企業にとっても大きなリスクであり、もし被災した場合、経営に大きなダメージを与えてしまう危険性があります。ミツミでは、生産拠点を国内外に分散させることで、万一の際の生産への影響を最小限に抑え、製品の安定供給を図っています。

2011年3月に発生した東日本大震災は、当社が従来想定していた事態を大きく超える事態となりました。この災害を受け、現在の危機管理体制を大幅に見直すことと致し、再度さまざまな改善点を抽出し、改善点を反映させ、一層のリスク管理を行っていきます。



総合防災訓練(本社)

お客様とミツミ

Customers and MITSUMI

お客様に関する基本的考え

お客様の満足度をいかに高めていくか。それは、電子部品メーカーにとっても企業発展のための最重要課題と言えます。ミツミでは、「市場動向およびニーズの変化の把握」、「環境への十分な配慮」、「適正な価格と高品質の両立」、「迅速かつ確実な納期」等をお客様満足度向上のための課題とし、仕事の仕組みの改善・向上に全社を挙げて取り組んでいます。

お客様とより強固な信頼関係に結ばれた電子部品メーカーとして、ミツミは、さらなる発展を目指していきます。

国際品質マネジメント規格の取得状況

ミツミでは、国内・海外のすべての事業所・生産拠点において、品質マネジメントの国際規格ISO9001の認証を取得しています。また、自動車産業に固有の要求条件を加えた、一段の基準の厳しい国際品質管理システム規格ISO/TS16949の認証も取得。どの生産拠点で製造されたミツミ電機製品であっても同じ水準の高品質を提供できるよう、品質管理システムの維持・改善に取り組んでいます。

展示会出展・開催

「CEATEC JAPAN」

2010年10月5日(火)から9日(土)の5日間にわたり今回は景気回復基調の中、616社/団体が出展し、総来場者数も昨年より3万人多い181,417名を数えました。

当社ブースでは、注目市場(LED照明、スマートグリッド、ヘルスケア、環境・エコ)や当社注目製品(インプットデバイス)に対しコーナーを設け、得意技術を活かした提案型提示で当社の方向性を強くアピールするとともに、当社を知らない来場者に対しても当社製品が身近な製品に数多く使われていることをアピールしました。



CEATEC JAPAN会場の様子



仕入先様とミツミ

Suppliers and MITSUMI

購買の基本方針

高性能・高品質の電子部品を製造するためには、原材料や部品の仕入先様との緊密な協力関係が不可欠です。ミツミ電機では、法令遵守はもちろん、社会規範や社会倫理に従った公正で公平な購買業務に努めています。特に、独占禁止法や下請法などの購買に関する法令については、購買担当部門や関係部門での説明会を行い、法令遵守を徹底しています。

CSR調達の推進

グローバルにビジネスを展開している企業には、自社はもちろんのこと、仕入先様も含めたサプライチェーン全体において法令遵守や人権、労働条件・環境・企業倫理等の社会的責任に配慮した企業活動を行うことが求められています。

そこで、ミツミでは、かねてから進めてきた「グリーン調達」を発展させ、人権や労働条件等への取り組み状況も考慮した「CSR調達」を推進し、仕入先様にCSRへの配慮をお願いしています。

グリーン調達への取組み

環境重視型の電子部品を供給するためには、仕入先様にも環境負荷の低減に取り組んでいただき、総合的な製品づくりに取り組まなくてはなりません。ミツミ電機では、仕入先様から納入されるすべての材料・資材の成分情報を提出していただき、使用禁止物質が使用されていないかチェックを行っています。

海外生産拠点においても使用禁止物質のチェックを実施。さらに、中国・台湾・フィリピン・マレーシアの各地区において仕入先様企業への説明会を実施し、ミツミ電機グループにおける使用禁止化学物質の管理をお願いしています。

化学物質管理

欧州のRoHS指令をはじめ化学物質の使用制限に関する法規制が、各国・各地域において整備されています。ミツミ電機では、化学物質を「入れない! 使わない! 出さない!」をスローガンに、製品中への使用禁止物質の排除はもちろんのこと、管理対象物質を選定し使用量を把握するなど、独自の化学物質管理体制を構築しています。

株主・投資家様とミツミ

Shareholders, Investors and MITSUMI

情報開示の基本方針

ミツミでは、金融商品取引法や東京証券取引所の適時開示規則等の法令・規則を遵守し、株主・投資家の皆様の投資判断に、有益な情報を正確かつ公平に、適時・適切に提供することを、情報開示の基本方針としています。

この方針に基づき、「**アニュアルレポート**」、「**報告書**」等の各種レポートを発行し、四半期ごとの決算短信を当社ホームページに掲載しています。

また、株主総会等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを図り、事業活動へご理解いただくと共に、ミツミに対する信頼や共感を深めていただき、適切な企業評価を得られるようIR活動も進めています。



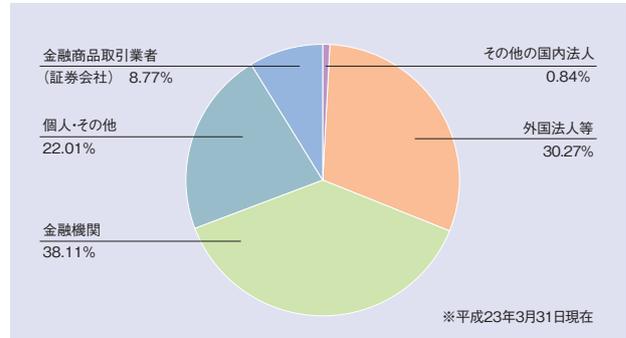
決算説明会資料



ミツミ電機ホームページ・IR情報ページ

<http://www.mitsumi.co.jp/ir/index.html>

株主構成



投資家様とのコミュニケーション

機関投資家や証券アナリストの皆様へ、当社の経営成績や経営方針・事業戦略を理解していただくため、年2回の決算説明会を開催しております。社長と担当取締役が、決算の概要や業績の見通しなどについて説明しております。

また、IR担当者による機関投資家や証券アナリストの皆様と個別取材にも積極的対応し、継続的なコミュニケーションを図っております。

株主総会

ミツミは、株主総会を株主の皆様と相対し、直接コミュニケーションを行うことができる重要な場と考えています。できるだけ多くの株主様に株主総会にご参加いただき、議決権を行使していただけるよう、また、皆様のご意見をより多く頂戴できるよう、招集通知の早期配送に努めています。

株主総会での事業報告においては、プレゼンテーションソフトを用い視覚的にわかりやすくご説明し、株主の皆様にご理解いただけるよう配慮しています。また、皆様からの幅広いご質問やご意見を受け付けています。

地域社会とミツミ

Local Communities and MITSUMI

ミツミ電機は、地域社会との共生・協調をモットーにグループ全体を挙げて、地域活動や社会貢献活動に参加し、さまざまな活動を行っています。

各事業所の環境美化活動

ミツミの各事業所では定期的に周辺地域の清掃活動を実施し、環境美化活動に努めております。

■厚木事業所の環境美化活動

厚木事業所では、2010年5月16日に厚木市相模川クリーンキャンペーンに参加しました。

また、6月1日に鮎釣り解禁を控え、キャンペーン終了時に15,000匹の鮎が子供たちの手で放流されました。



相模川クリーンキャンペーン



相模川
鮎稚魚放流

■秋田事業所の環境美化活動

秋田事業所では、地域貢献の一環として、事業所前の国道の遊休地の草刈りを実施しております。



草刈り前



草刈り後

地元交流の盆踊り大会

8月20日、千歳事業所は千歳市民納涼盆踊り大会に参加しました。青森の「ねぶた」をイメージした山車と共に北海盆唄に合わせ練り歩きました。

今回、山車は「山車大賞」を受賞し、また、地域振興への貢献が評価され感謝状の表彰を受けております。



千歳市民納涼
盆踊り大会



「山車大賞」を
受賞

従業員とミツミ

Employees and MITSUMI

社員ひとり一人がその能力を存分に発揮でき、充実した仕事が行えるようにすることが、企業の継続的発展の重要課題であると、ミツミ電機は考えています。社員の人格を尊重し、適正な処遇・配置を基本とし、やりがい、働きがいのある職場環境の整備に努めています。

人権の尊重

「ミツミ行動規範」では法令遵守はもとより、従業員の基本的な人権を尊重し、性別・年齢・人種など身体的要素や、信仰・価値観などの思想的要素、その他国籍、出身地などによる差別を行ってはならないと規定しています。この基本方針の下、不当な差別的言動や暴力行為・セクシャルハラスメントなどを許さない職場環境の構築、公正な人事制度の確立を進めています。

また、海外の生産拠点や営業拠点においても職場環境や人事制度における差別を排除し、人権尊重の考えを徹底しています。

海外拠点での人事制度

変化の激しいグローバル市場において企業が持続的に成長していくためには、人事制度において多様性を尊重することが一層重要になってきています。

ミツミの海外拠点では、現地での人材の採用・登用を長年にわたって進めています。製造部門のみならず、開発セクションで活躍するエンジニアや管理職にも現地採用の人材を積極的に配することで、現地社員の能力・向上心を引き出し、活力のある職場作りを進めています。

定年退職後の再雇用制度を実施

「高齢者の雇用の安定等に関する法律」および厚生年金法の改訂を受けて、高齢者の活用と経済的安定を図ることを目的に、ミツミでは、60歳で定年を迎えた従業員を再雇用する制度を導入しました。

この制度により、ベテラン従業員の持つ技術や知識、豊富な経験の活用を図り、若い世代への伝承を図っています。

従業員の健康管理

ミツミでは、社員の健康管理をサポートし、社員が安心して幸せに働ける組織づくりに取り組んでいます。健康支援のアプローチとしては、定期的な健康診断や健康教育の実施、健康相談、心のケアを必要とする社員に対してのカウンセリングなどを行っております。

社員教育制度

企業競争の激しいビジネス環境の中で、ミツミが発展を続けていくためには、グローバルに活躍できる優れた人材を育成していくことが重要であることは言うまでもありません。

キャリアや能力に応じた段階的な教育制度を用意し、職場のリーダーとして活躍するための高度なマネジメント能力の育成を実施しています。

環境報告書

Environmental Report

自然・環境との調和を図り 社会の持続的発展に貢献

環境報告書・目次

環境方針	20
環境マネジメントシステム	21
2010年度の事業活動と環境負荷の概要	26
環境配慮製品	27
化学物質管理	28
環境負荷の削減	30
環境コミュニケーション	33
各事業所における環境保護活動	34
サイトデータ	36

環境方針

Environmental Policy

基本理念

ミツミグループは、地球環境問題(自然・環境との調和)との対応を経営の最重要課題の一つとして位置付け、企業活動のあらゆる面で地球環境の保全はもちろん世界の動きに誠意を持って協調し行動する。

基本方針

ミツミグループは、電子部品の総合メーカーとして、国内外におけるさまざまな事業活動、製品及びサービスが生物多様性と地球環境に与える影響を的確に捉え、環境保全活動と事業活動の共生を推進する。

また、技術的・経済的に可能な限り環境影響を少なくすべく目的・目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善及び汚染の予防を推進すると共に地域社会から広く信頼される企業として基本理念の実現を目指す。

- (1) 総責任者直轄の環境管理組織によって、環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全活動の推進を図る。
- (2) 環境側面に関連して適用可能な法的要求事項、条例、地域協定、顧客の製品環境品質要求、同意するその他の要求事項を順守すると共に、必要に応じて自主管理基準を設けて、環境負荷を低減し環境保全に努める。
- (3) 製品の研究開発・設計段階から省資源、省電力、有害物質不使用、リサイクル性、生態系への影響低減など環境に配慮した製品開発に努める。
- (4) オゾン層破壊物質、有害化学物質等環境に負荷を与える物質は、可能な限り代替技術の採用及び代替物質への転換に努める。
- (5) 企業活動の全ての領域で省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物・汚染物質の削減、二酸化炭素を中心とした温室効果ガスの削減、などの環境保全に取り組む。
- (6) 環境内部監査を定期的を実施し、環境マネジメントシステムの維持・改善に努める。
- (7) この環境方針を全従業員、構成員及び関連する全ての人に周知させると共に、環境への意識高揚と保全活動の質的向上を目指し教育啓蒙を行う。

改訂：2011.05.18
制定：2010.02.16

ミツミ電機株式会社
代表取締役社長 森部 茂

環境マネジメントシステム

Environmental Management Systems

ミツミグループは、環境基本理念である自然・環境との調和を達成していくために、グループを挙げて取り組んでいます。

ミツミグループ環境マネジメントシステム

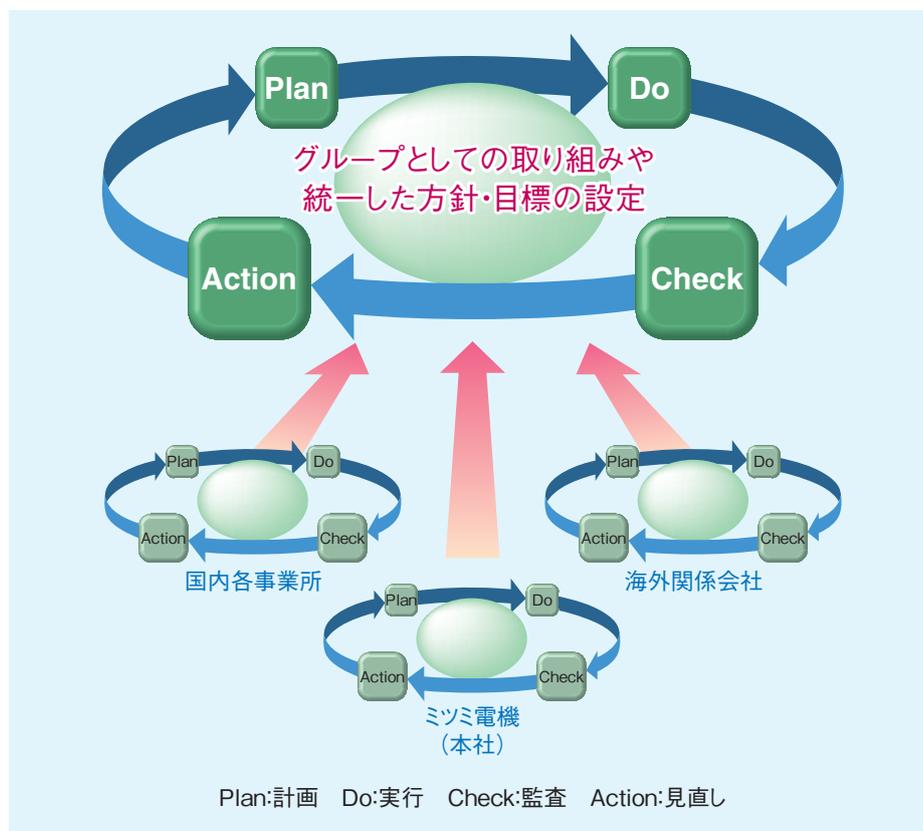
ミツミグループでは、生産活動の大半を海外で行っており、環境保護推進活動を行っていくためには、国内各事業所はもちろんのこと海外関係会社を含めた環境マネジメント体制の構築と継続的改善が不可欠です。

近年の環境問題は、地球温暖化現象、オゾン層破壊、有害化学物質の使用、廃棄物の不法投棄、生物多様性など、国境を越えた地球規模の問題にまで拡大し、我々の企業活動にも多大な影響を及ぼしています。

そこで、ミツミグループは国内各事業所と海外生産拠点全てで、ISO14001のグローバル認証の取得を進め、2010年12月にグローバル認証を取得しました。

ミツミグループはISO14001のマネジメントシステムに則り、グループ全体としての取り組みや統一した方針・目標を設定しPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを回し、国内各事業所や海外関係会社においてもそれぞれの活動領域に見合った環境保護推進活動を行っています。

■ マネジメントイメージ



環境マネジメントシステム

Environmental Management Systems

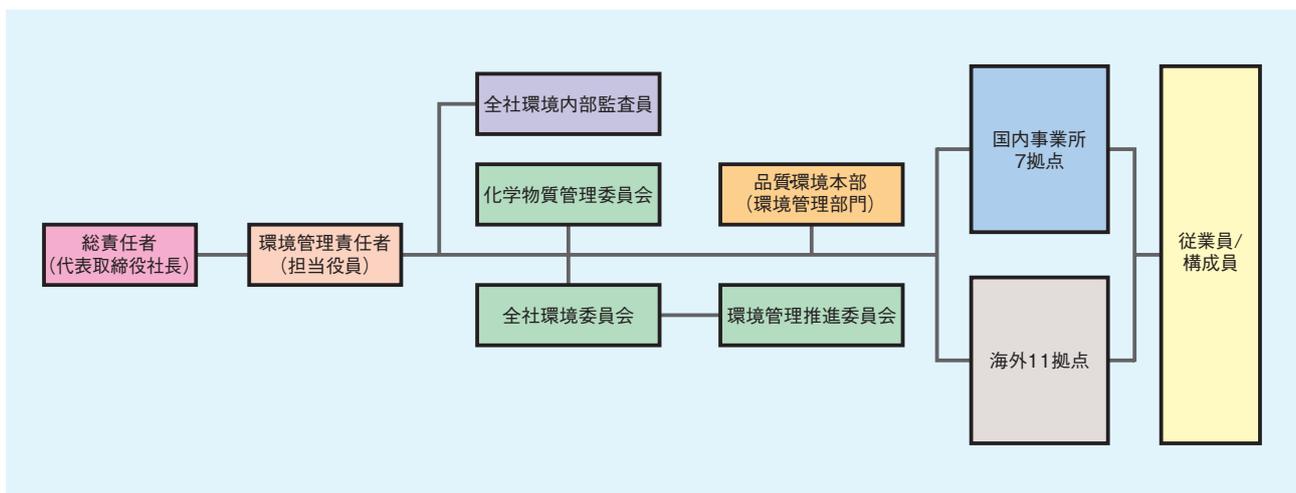
■ マネジメント体制

ミツミグループでは、総責任者の出席のもと全社環境委員会でグループの方針や目標を決定し、環境管理責任者を通じて国内各事業所及び各海外関係会社に伝えられます。国内各事業所及び各海外関係会社ではその内容を受け、それぞれの体制によって取り組みを実施します。

各事業部門及び関連する本社機構部門の代表者から構成される化学物質管理委員会では、ミツミグループの製品含有化学物質に関する事項の方針の実行や、化学物質に関する情報(得意先要求、国内外法規制等)の共有及び問題点の検討などを行うと同時に、各海外関係会社にも決定事項や情報を展開しています。

環境管理推進委員会は各活動サイトの環境管理責任者及び事務局から構成され、ミツミグループの環境に関する諸活動、問題点の検討及びグループ共通の年度環境目的・目標の原案作成と全社環境委員会への上申などを行っています。

■ マネジメント体制



ISO14001 認証取得状況

ミツミグループは、1997年から海外工場を含む全拠点でISO14001認証を取得し環境問題に取り組んできました。

さらに2005年にISO14001国内統合認証を取得し、2010年12月にはミツミグループとしてISO14001グローバル認証を取得しました。

これからも企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に、ミツミグループ一体となった取り組みを強化していきます。

ISO14001 認証取得状況

拠点名	認証取得年月	審査登録機関
ミツミ電機 本社	1997/12	(財)電気安全環境研究所 (JET)
厚木事業所	1997/10	
秋田事業所	1997/11	
山形事業所	1997/11	
水戸分室	1997/ 1	
九州事業所	1998/ 1	
千歳事業所	1998/ 1	
台北ミツミ股份有限公司	1997/12	
台湾ミツミ股份有限公司	1997/11	
ミツミフィリピン	1998/ 2	
セブミツミ	1998/ 4	
ミツミテクノロジーマレーシア ポンティアン工場	1999/ 3	
ミツミテクノロジーマレーシア バトバハ工場	1999/ 3	
珠海ミツミ電機有限公司	1998/ 2	
青島ミツミ電機有限公司	1998/ 5	
天津ミツミ電機有限公司	1998/ 8	
吴江ミツミ電子有限公司	2005/ 5	
タイミツミ	2002/12	

環境監査

ISO14001;2004のシステムに従って、国内各事業所及び海外関係会社において定期的に内部監査を実施しています。国内では全社環境内部監査員として登録されている内部監査員が、他事業所の内部監査に参加して、監査に関する内容や情報などの交換を行ってレベルアップを図っています。

環境品質監査（化学物質管理システム監査）

化学物質に関しては、環境品質監査員に認定されている監査員が、国内各事業所の事業部門や海外関係会社及びサプライヤーの環境品質監査を定期的実施して、化学物質管理体制の確認や問題点の洗い出しとその是正処置を行っています。

環境品質監査員の認定は、社内規程で定めた認定条件に基づいて実施し、国内事業所で15名、海外関係会社で41名が認定者となっています。

2010年度は、サプライヤー151社に対し環境品質訪問監査を実施し、監査結果についてはミツミグループ共通のサプライヤーデータベースに登録し、データの共有化と有効活用を図っています。



外部審査機関による環境監査

環境マネジメントシステム

Environmental Management Systems

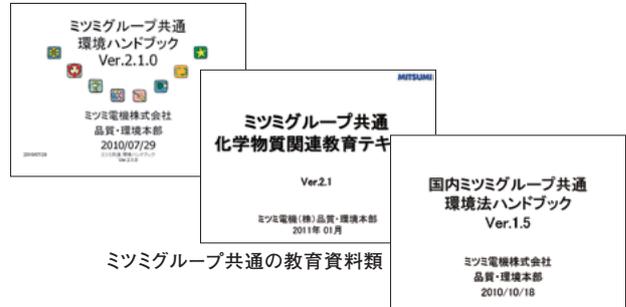
環境教育

毎年4月に実施される新入社員への環境教育をはじめとして、ISO14001や化学物質管理に基づく各種環境教育を国内各事業所及び海外関係会社で実施しています。

環境教育に必要となるテキストは、環境管理推進委員会の下部組織である教育分科会が中心となって内容を検討し、環境管理部門(品質・環境本部)が編集・作成しています。今までに環境ハンドブック、化学物質関連教育テキスト、環境法ハンドブックなどを発行し、これら教材を国内各事業所に配付して従業員全員を対象に環境教育を実施しています。

また当社の環境管理活動を維持・向上するために、スタッフや関係者を対象に、年1回外部教育機関から講師を招いて環境教育研修を実施しています。

2010年度は「ISO14001 環境内部監査員レベルアップ研修(1日コース)」を開催し、国内各事業所から21名が参加しました。



ミツミグループ共通の教育資料類



環境内部監査員レベルアップ研修の講義風景



環境内部監査員レベルアップ研修での演習風景

中期目標と達成状況

ミツミグループの中期目標(ミツミボランタリープラン)は国内各事業所と海外関係会社(生産拠点)を対象にしています。現在は、2005年度を基準に2012年度までを目標とする第二次ボランタリープランを推進しています。

2010年度の地球温暖化防止(CO₂排出量削減)につきましては、売上高原単位で単年では2.8%削減となり目標に達しませんでした。累積では13.6%削減し目標を達成しています。廃棄物削減につきましては、売上高原単位で単年では12.5%削減、累積では8.1%削減し目標を達成しています。省資源(用水使用量削減)につきましては、売上高原単位で単年では10.5%増加し目標に達しませんでした。累積では5.6%削減し目標を達成しています。

第二次ボランタリープランの結果(2010年度まで):ミツミグループ全体

推進項目	推進目標	2005年度 (基準年度)	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
			結果	評価	結果	評価	結果	評価	結果	評価	結果	評価
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量を 2012年までに5%削減 (2005年度比、売上高CO ₂ 原単位*)	105.97 (t-CO ₂ /億円)	88.42	☺	80.48	☺	86.32	☺	92.06	☺	103.00	☹
			-16.6%	96.43	-24.1%	90.56	-18.5%	88.98	-13.1%	89.58	-2.8%	91.65
廃棄物削減	廃棄物総排出量を 2012年までに5%削減 (2005年度比、売上高原単位)	4.56 (t/億円)	4.16	☺	4.42	☺	4.33	☺	3.47	☺	3.99	☺
			-8.8%	4.34	-3.1%	4.37	-5.0%	4.36	-23.9%	4.22	-12.5%	4.19
省資源	用水使用量を 2012年までに5%削減 (2005年度比、売上高原単位)	1.53 (千m ³ /億円)	1.31	☺	1.26	☺	1.38	☺	1.59	☹	1.69	☹
			-14.4%	1.41	-17.6%	1.36	-10.2%	1.40	+3.7%	1.40	+10.5%	1.44
			-7.8%	-11.1%	-4.2%	-11.1%	-4.4%	-8.5%	-8.5%	-5.6%	-5.6%	

※売上高CO₂原単位(t-CO₂/億円)={(各エネルギー使用量×CO₂換算係数)の総和}/売上高

環境会計

集 計 範 囲：国内各事業所(7拠点)

集 計 期 間：2010年4月～2011年3月

参照ガイドライン：環境省環境会計ガイドライン2005年版に準拠

集 計 結 果：2006年度より、国内全事業所(7拠点)を対象に環境会計を本格導入し、環境保全コストと環境保全対策による経済効果を把握しています。

2010年度の環境保全コストは、投資が57.9百万円、費用が896.4百万円でした。投資の内訳は省エネルギー設備が60%、化学物質分析装置が37%を占めています。費用の内訳は公害防止コストが30%、管理活動コストが29%、上・下流コストが27%を占めています。

環境保全対策による経済効果は16.1百万円でした。内訳は省エネルギー効果が52%、有価物売却等による収益が47%を占めています。なお当社では、その活動成果が明確であるもののみを経済効果として算出しています。

■投資・費用・経済効果の推移(国内事業所)



■環境保全コスト

分類	主な範囲	投資 (百万円)	費用 (百万円)	経済効果 (百万円)
事業 エリア内	公害防止コスト	1.8	267.3	0.0
	地球環境保全コスト・効果	34.9	61.2	8.3
	資源循環コスト・効果	0.0	72.3	7.5
上・下流コスト・効果	環境保全対応の製品・サービス提供のための追加コスト(化学物質削減など)など	21.2	238.0	0.3
管理活動コスト	環境対策組織、環境マネジメントシステムの整備運用、従業員への環境教育など	0.0	257.3	0.0
研究開発コスト		0.0	0.0	0.0
社会活動コスト	地域住民の行う環境活動への支援、情報提供等の社会的取組みなど	0.0	0.3	0.0
環境損傷対応コスト		0.0	0.0	0.0
合 計		57.9	896.4	16.1

2010年度の事業活動と環境負荷の概要

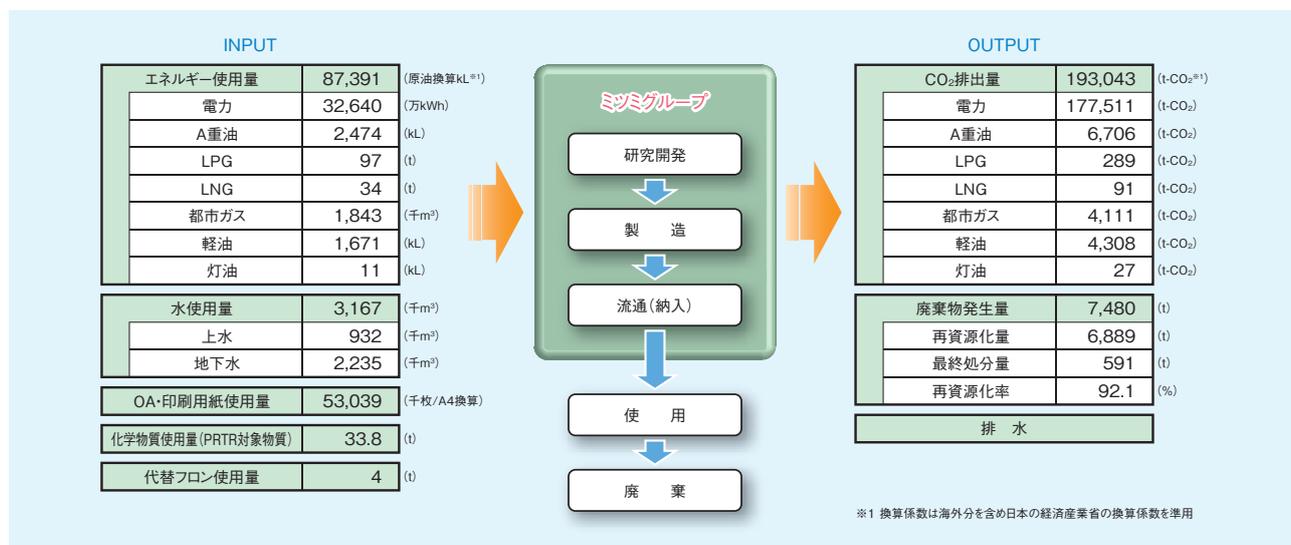
Outline of the Environmental Loads in Fiscal 2010

ミツミグループでは、事業活動における直接的な環境負荷（製品の開発や製造、納入）があり、また間接的にも事業・生産活動に伴う排水や廃棄物の発生などによっても環境に負荷を与えています。

特に製造段階では、材料などの資源の使用や、電力・燃料などエネルギーの使用、各種化学物質の使用などがあります。

ミツミグループでは、これら直接・間接の環境負荷を正確に把握すると同時に、環境負荷の削減に努めています。

環境負荷の概要図



PRTR対象物質の使用、排出状況

日本では、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化学物質排出把握管理促進法、化管法またはPRTR法)に基づいて、PRTRの対象となる「第一種指定化学物質」462物質について年間1トン以上を製造したり使用したりしている事業者は、環境に排出した量と、廃棄物として処理するために事業所の外へ移動させた量を自ら把握し、年に1回国に届けなければなりません。

ミツミ電機で対象となる事業所は、厚木事業所と千歳事業所の2拠点で、2010年度に使用している対象化学物質は5種類、約33.8トンです。毎年定期的に国に報告しています。

厚木事業所・千歳事業所の取扱量と排出・移動状況

単位:トン/年

事業所名	化学物質名	取扱量 (前年度比)	排出量					移動量			消費量	除去処理量
			大気	公共用水	土壌	事業所内埋立	合計	廃棄物	下水道	合計		
厚木事業所	2-アミノエタノール	8.96 (72%)	3.56	0.00	0.00	0.00	3.56	5.40	0.00	5.40	0.00	0.00
	ふっ化水素及びその水溶性塩	4.58 (78%)	0.04	0.36	0.00	0.00	0.40	4.18	0.00	4.18	0.00	0.00
千歳事業所	キシレン	2.10 (142%)	0.09	0.00	0.00	0.00	0.09	2.01	0.00	2.01	0.00	0.00
	N, N-ジメチルアセトアミド	2.65 (252%)	0.11	0.00	0.00	0.00	0.11	2.54	0.00	2.54	0.00	0.00
	フェノール	1.21 (116%)	0.05	0.00	0.00	0.00	0.05	1.16	0.00	1.16	0.00	0.00
	ふっ化水素及びその水溶性塩	14.26 (135%)	0.14	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.71	0.71	0.00	13.41
合計		33.76 (104%)	3.99	0.36	0.00	0.00	4.35	15.29	0.71	16.00	0.00	13.41

環境配慮製品

Environmental consideration products

対象製品

超小型・薄型のタクティールスイッチSOGシリーズ

開発コンセプト

一段と小型・薄型・軽量化の進むスマートフォン、デジタルカメラ、ゲーム機等に対応できる様、小型・薄型、実装面積の小ささを配慮したタクティールスイッチです。

※当社従来（SOCシリーズ）比42.5%小型化（体積比）、実装高さ0.4mmから0.35mmへ0.05mm薄型化、実装面積30%削減

環境負荷低減

RoHS指令対応、ハロゲンフリー品です。

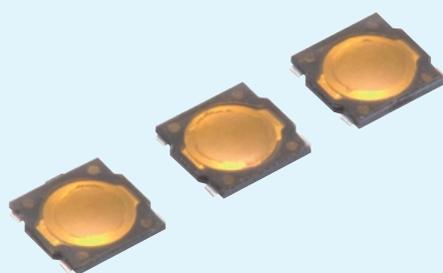
高信頼性

防塵構造により高信頼性を実現しています。

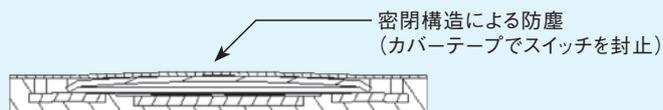
省資源設計

省資源設計により小型・薄型化を実現し、使用材料を低減しています。

※当社従来比で使用材料重量38%低減



超小型・薄型のタクティールスイッチSOGシリーズ



化学物質管理

Chemical Substances Management

ミツミグループでは、「入れない、使わない、出さない」をモットーに、化学物質の使用を厳格に管理する化学物質管理システムを構築しています。

化学物質管理システム

2006年7月に施行されたRoHS指令を皮切りに、有害化学物質の使用制限や管理に関する各地域・国（EU、米国、中国など）の法律が制定・整備されています。さらに2007年6月には欧州REACH規則が施行され、規制範囲や課される義務が拡大しています。それらに合わせて国内外の顧客によるグリーン調達や化学物質管理基準の改定、環境関連調査依頼など、その対応に追われています。

このような厳しい情勢の中で、ミツミグループとして「入れない・使わない・出さない」をモットーに、有害化学物質の使用を厳格に管理、徹底する化学物質管理システムを構築し運用しています。具体的には、以下のような施策を実施し、保証された製品を顧客に納入しています。

1. 化学物質関連管理規程類の見直しと周知の徹底
2. 国内、海外生産拠点における化学物質管理システムの構築と運用及び情報の共有化の徹底

3. 製品含有化学物質のデータベース化
4. サプライヤー管理のデータベース化
5. サプライヤーに対する使用禁止物質管理の徹底の指導

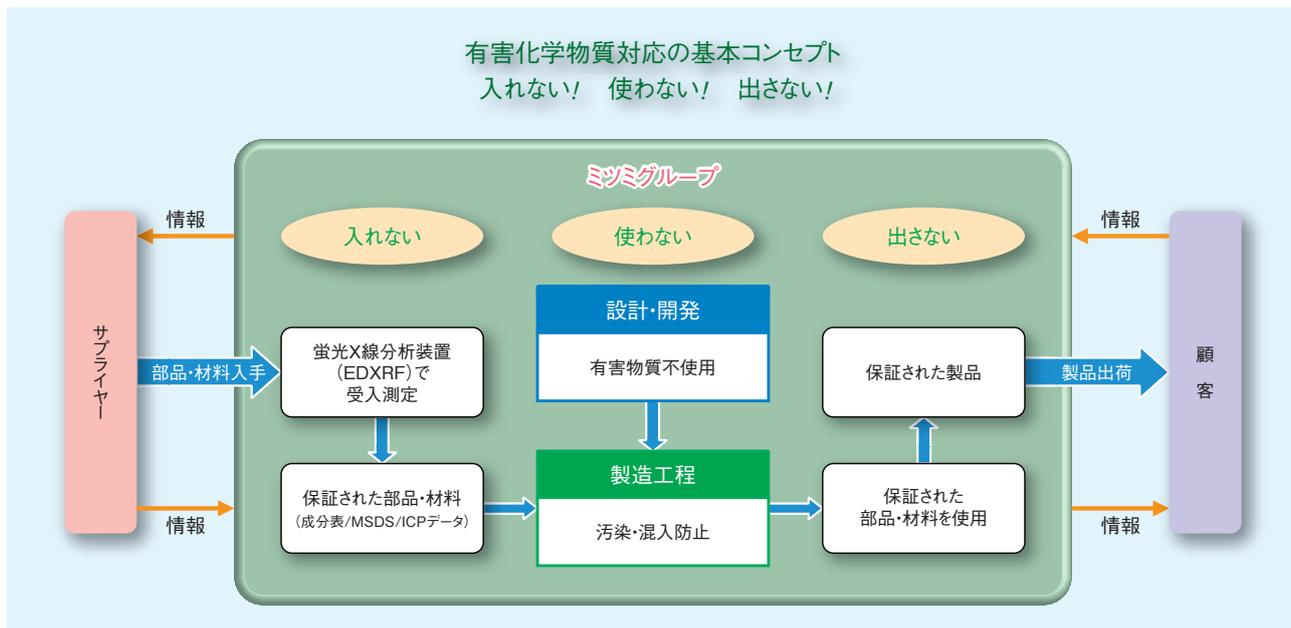
また2009年度から新しい化学物質データベースシステムの本格運用を開始し、世界的にますます厳しくなる化学物質管理に対応できるように、システムを構築しています。

国内外のサプライヤー様に対してもREACH規則に伴う化学物質含有調査に関する説明会を開催し、ミツミグループにおける使用禁止化学物質の管理の徹底と、環境品質保証システムの構築をお願いしました。



フィリピンにおける説明会

有害化学物質対応の基本コンセプト



化学物質分析装置の設置状況

ミツミグループの有害化学物質対応の基本コンセプト「入れない」「使わない」「出さない」のモットーを着実に実行するために、国内・海外の17拠点に蛍光X線分析装置(EDXRF)を導入して以降、EDXRFで分析不可能な化学物質を分析するガスクロマトグラフ分析装置(GC/MS)を主要12拠点に導入しています。

中国地区及びフィリピン地区の海外生産拠点ではサプライヤーから納入される部品・材料の数量が多く、受け入れ体制を強化するためにEDXRFを複数台導入して対応しています。

また厚木事業所と中国の天津ミツミ電機有限公司では、カドミウム、鉛、水銀を精密分析できる誘導結合プラズマ発光分光分析装置(ICP)を導入しています。なお厚木事業所と天津ミツミはISO/IEC17025試験所認定を取得しており、国際的に通用する試験所として認知され、発行する認定範囲の試験報告書(データ)は世界共通の証明書となります。

このようにミツミグループでは、スピーディーで確実な検査体制を敷き、有害化学物質管理を徹底しています。

EDXRF及びGC/MS、ICP装置の設置拠点と保有台数

拠点名	EDXRF	GC/MS	ICP
ミツミ電機 本社	1	—	—
厚木事業所	7	3	1
秋田事業所	1	—	—
山形事業所	1	1	—
水戸分室	1	—	—
九州事業所	2	1	—
台北ミツミ股份有限公司	1	1	—
台湾ミツミ股份有限公司	2	1	—
ミツミフィリピン	4	1	—
セブミツミ	4	1	—
ミツミテクノロジーマレーシア ポンティアン工場	1	1	—
ミツミテクノロジーマレーシア バトバハ工場	2	—	—
珠海ミツミ電機有限公司	5	3	—
青島ミツミ電機有限公司	4	2	—
天津ミツミ電機有限公司	3	1	1
呉江ミツミ電子有限公司	2	1	—
タイミツミ	1	—	—
合計	42	17	2



EDXRF

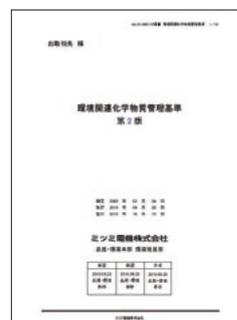


誘導結合プラズマ発光分光分析装置(ICP)

化学物質規制への対応

2006年7月に欧州で施行された、電気電子機器に含まれる特定有害化学物質の使用制限(RoHS指令)や、2007年6月施行の化学物質の登録・評価・認可及び制限に関する規則(REACH規則)など、世界各国で有害化学物質への規制の拡大と強化が実施されています。

ミツミグループでは、これら有害化学物質の規制に対応するため、法規制の改正、社会の動向、お客様の要望などによる化学物質管理文書類の見直しを随時行っています。特に当社のサプライヤー様を対象にした「環境関連化学物質管理基準」の見直し改訂を行い、2010年9月に第2版を発行し、当社に納入する原材料や電子部品等への使用禁止物質不使用の徹底をお願いしています。なお本基準は、当社ホームページ上でも和文、英文、中文の3ヶ国語で公開しています。



環境関連化学物質管理基準

環境負荷の削減

Reduction of Environmental Loads

ミツミグループでは、企業活動のすべての領域で省資源や省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルなどにより、環境負荷の軽減に取り組んでいます。

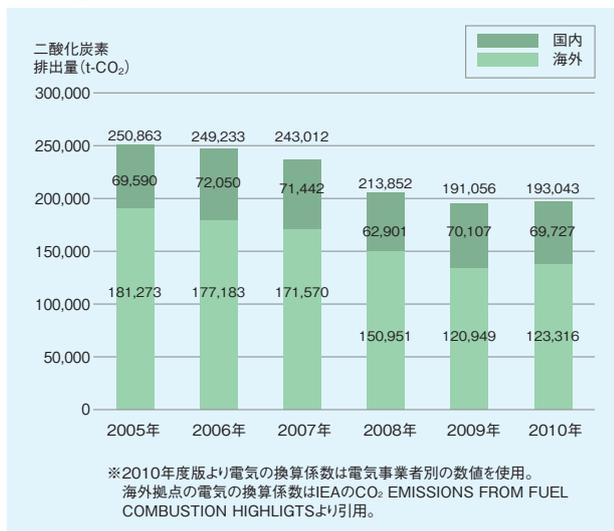
地球温暖化への対応

地球温暖化は、二酸化炭素(CO₂)やメタン、フロンなど温室効果ガスと呼ばれている6種類の物質の大気中濃度が増加することに起因しています。そのうちCO₂の地球温暖化に対する寄与度は、全世界で60%、日本では95%と大きくなっています。従って、いかにCO₂の排出量を削減するかがポイントとなります。

2010年度のCO₂排出量は、2009年度比で1%削減の目標に対し1%増加し目標未達成でしたが、2005年度比では23%削減しています。

2010年度の売上高当たりのCO₂排出量原単位は、2005年度比で2012年度までに5%削減の目標に対し2.8%削減しています。

CO₂排出量推移(ミツミグループ全体)



省エネルギーの取り組み

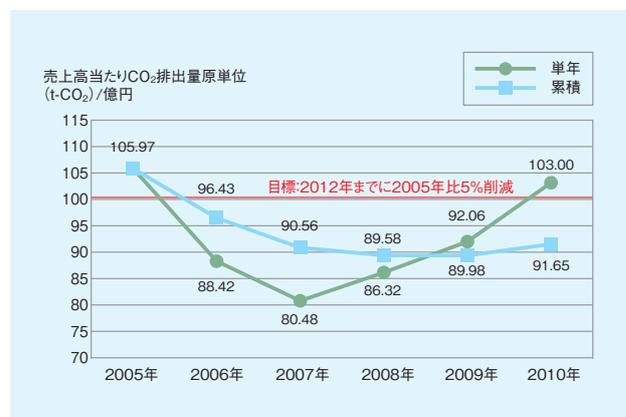
ミツミグループの2010年度のエネルギー使用量は2009年度比では0.6%増加しましたが、2005年度比では20%削減しています。

省エネルギー施策としては、省エネタイプの設備導入や空調管理の徹底、不要照明の消灯などを推進してきました。今後とも継続的に省エネルギーに取り組んでいきます。

エネルギー使用量推移(ミツミグループ全体)



売上高当たりのCO₂排出量原単位推移(ミツミグループ全体)

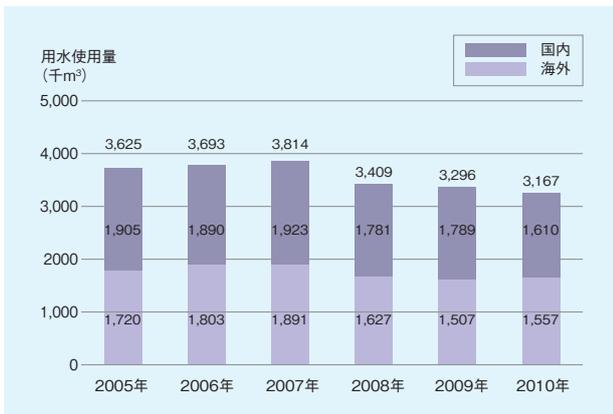


省資源の取り組み

ミツミグループの用水の使用量(上水、地下水)につきましては、2010年度は2009年度比で3.9%の削減、2005年度比では12.6%の削減となりました。

売上高原単位に関しましては、2010年度は用水の使用量が減少したにもかかわらず売上高の減少により、2009年度比で6.3%増加、2005年度比では10.5%増加しました。今後も生産量の増減にかかわらず用水の使用量削減に取り組んでいきます。

■ 用水使用量推移(ミツミグループ全体)



■ 売上高当たりの用水使用量原単位推移(ミツミグループ全体)



環境負荷の削減

Reduction of Environmental Loads

■ 廃棄物削減の取り組み

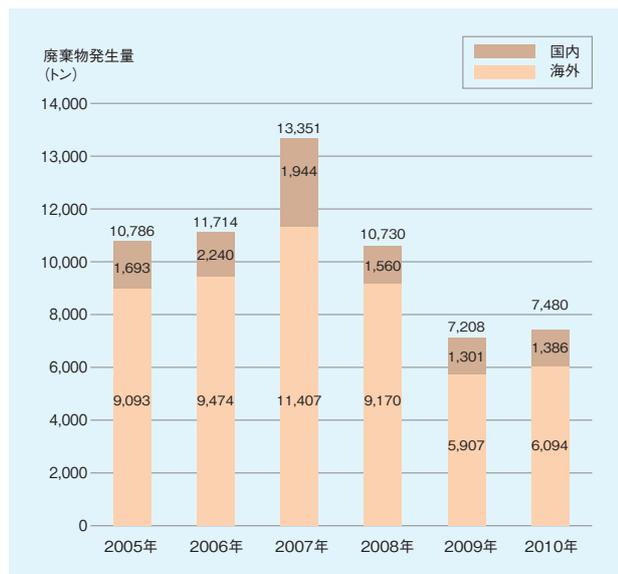
ミツミグループの廃棄物削減につきましては、2005年度から2007年度までは発生量が増加傾向にありましたが、その後減少傾向に転じております。2010年度は2009年度比で3.8%の増加となりましたが、2005年度比では31%削減、ピーク時の2007年度比では44%削減と大幅に減少しております。特に不良等による製品廃棄の削減に努めたことと、従来廃棄物となるものを繰り返し使う(リユース)ことを心がけたことによるものと考えられます。

売上高原単位に關しましては、2010年度は2009年度比で15%の増加となりましたが、2005年度比では12.5%の削減となりました。

廃棄物再資源化率につきましては、国内においては2006年度にゼロエミッション*を達成して以来現在まで99%以上を維持継続しております。海外においても再資源化率向上に向けた活動を継続・推進しています。

*ゼロエミッションの定義: 廃棄物の再資源化率99%以上を3ヶ月間連続で持続する。

■ 廃棄物発生量推移(ミツミグループ全体)



■ 廃棄物再資源化率推移(ミツミグループ全体)



■ 売上高当たりの廃棄物発生量原単位推移(ミツミグループ全体)



環境コミュニケーション Environmental Communication

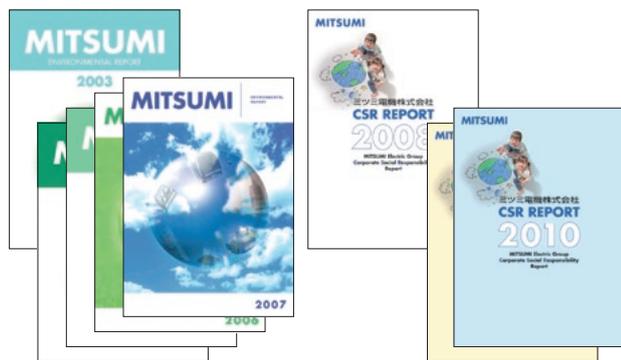
ミツミグループでは、環境保護推進活動の状況を社内・社外に伝達するため、情報を公開しています。

情報発信

■社外への情報発信

2004年2月、これまでの環境保護推進活動をまとめた当社環境報告書を創刊。以来、各年度の環境活動内容を紹介した環境報告書を発行しています。また2008年度版からは、CSR(企業の社会的責任)の活動を盛り込んだCSR報告書としています。

また、インターネット上の当社Webサイトを通じて、社会貢献活動と環境保護推進活動の各取り組みについて紹介しています。環境関連化学物質管理基準に関する資料も日本語、英語、中国語の3ヶ国語で公開しサプライヤー様への利便性を図っています。



環境報告書2003~2007

CSR報告書2008~2010



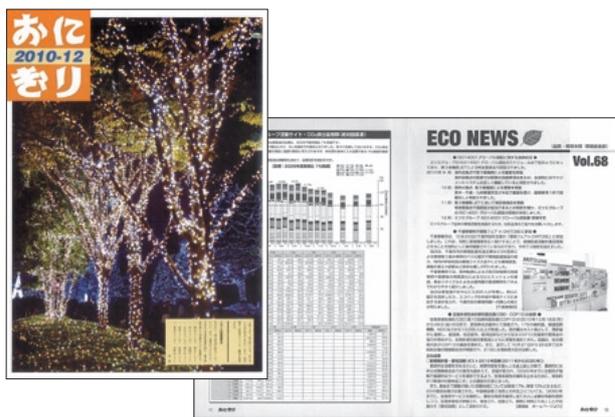
ミツミ電機Webサイト
<http://www.mitsumi.co.jp/profile/csr.html>

■社内への情報発信

当社従業員に対しては、イントラネットを通じて環境情報の発信と共有に努めています。また、社内報「おにぎり」の中でも「ECO NEWS」として毎号環境情報ページを掲載し、トピックス的な環境活動を取り上げて啓発に努めています。



ミツミグループイントラネット



ミツミグループ社内報「おにぎり」

各事業所における環境保護活動

Environmental Protection Activities at Each Factories

ミツミグループでは各事業所でも環境保護活動を推進し、様々な活動を通じて地域社会への貢献にも努めています。

千歳事業所が 環境フェアin CHITOSEに参加

千歳事業所は、千歳市主催の「環境フェアin CHITOSE」(2010年10月23日)に参加しました。これは、市民に環境情報を広く紹介することで、環境配慮活動を普及啓発させることを目的として毎年開催されているものであり、今回で3回目を迎えました。

当日は、千歳市内の環境配慮先進企業など24団体による環境取り組み事例のパネル展示や環境配慮製品の紹介、市内中学校対抗の環境クイズ大会やこども環境教室、家庭の省エネ診断など多彩な催しが行われました。

千歳事業所では、燃料転換による大気汚染物質の削減事例や廃棄物の再資源化によるゼロエMISSIONの達成、用水リサイクルによる水使用量の削減事例をパネルでわかりやすく紹介しました。

当日は家族連れを中心に約3,200人が来場し、熱心に展示を見学したり、エコバッグの作成や環境クイズに参加する姿が見られ、千歳市民の環境問題への関心の高さが伺えました。



環境フェア in CHITOSEに
おけるミツミの展示

国内事業所でクリーンキャンペーンを実施

厚木事業所では、6月の環境月間行事の一環として、厚木事業所周辺の清掃活動(クリーンキャンペーン)を行いました。可燃物・ビン・缶・金属・プラスチックと分別した回収を行い、周辺地域の環境美化に貢献しました。

本社では、10月に本社周辺道路の清掃活動を行いました。道路周辺には空のペットボトル・たばこの吸殻・空缶・軟式ボールなどの、さまざまなゴミが落ちていました。特にペットボトルとたばこの吸殻が多く、最終的に90リットルのゴミ袋で、約2袋分のゴミを収集できました。今後も継続してクリーンキャンペーンを実施していく予定です。国内各事業所でも同様の取り組みを実施しています。



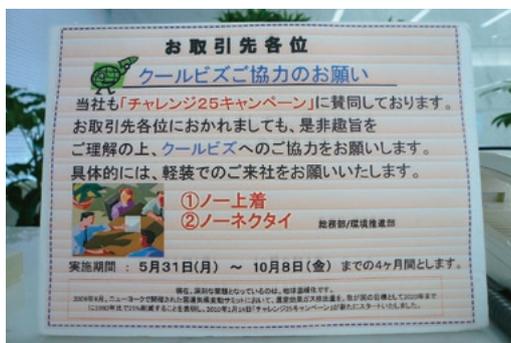
クリーンキャンペーン(厚木)



クリーンキャンペーン(本社)

国内事業所でクールビズを推進

国内事業所では、政府が推進する「チャレンジ25キャンペーン」に賛同し、5月31日から10月8日までクールビズを推進しています。具体的には社内の冷房設定温度の順守と、来客者、サプライヤー様を含めノー上着、ノーネクタイの徹底をお願いしています。



クールビズをお願い(本社)

東日本大震災の影響による電力供給不足への対応

2011年3月11日に発生した東日本大震災は東日本の沿岸部に甚大な被害をもたらしました。震災の影響による東京電力及び東北電力管内の電力供給不足への対応としましては、本社（東京）、厚木事業所、秋田事業所、山形事業所及び水戸分室のオフィス部門で、照明の間引き、空調管理の徹底などを実施しました。なお電力供給不足地域以外の事業所（千歳）におきましても、意識を共有し節電の取り組みを実施しています。

ミツミグループ環境保護推進活動のあゆみ

年 月	活動内容
1990/ 1	全社臨時フロン対策委員会設置
1993/ 6	特定フロン・トリクロロエタンを全廃。環境本部設置
1993/12	全社環境委員会設置
1994/ 8	環境保護推進活動計画(ボランタリープラン)策定
1998/ 1	国内全生産拠点(7拠点)でISO14001認証取得完了
1999/ 3	海外主要生産拠点(13拠点)でISO14001認証取得完了
1999/ 9	ミツミ鉛フリー化推進専門委員会設置
2000/12	有機塩素系化合物(ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)を全廃
2001/ 2	ミツミWebサイトにミツミの環境活動を掲載
2002/ 2	全社化学物質管理プロジェクト設置
2002/ 7	蛍光×線分析装置導入開始
2002/10	環境関連化学物質管理規程の制定
2003/ 1	国内外・主要生産拠点の環境品質内部監査を開始
2004/ 2	ミツミ環境報告書2003を創刊 ISO14001国内統合化推進活動を開始
2004/ 8	全社共通の環境方針、環境マニュアル、規程類を制定
2005/ 1	ISO14001国内統合認証を取得
2006/ 1	ISO14001国内統合認証に千歳事業所を追加
2006/ 3	国内全事業所でゼロエミッションを達成
2006/11	ガスクロマトグラフ質量分析装置導入開始
2006/12	化学物質管理に関する海外サプライヤー説明会開催
2007/ 4	第二次環境保護推進活動(ボランタリープラン)策定
2007/ 5	化学物質管理に関する国内サプライヤー説明会開催
2008/ 3	厚木事業所でISO/IEC17025試験所認定を取得 化学物質管理に関する海外サプライヤー説明会開催
2009/ 2	従来の環境報告書にCSRを含めた「CSR REPORT 2008」を刊行
2009/10	国内外ミツミグループ全体のISO14001グローバル認証取得の取り組み開始を宣言
2010/2	国内外ミツミグループ全体の環境方針を発行
2010/3	中国 天津ミツミでISO/IEC17025試験所認定を取得
2010/12	国内外ミツミグループISO14001グローバル認証を取得

サイトデータ

Site Data

ミツミグループは、世界各地の事業所で生産活動を行っています。

生産の多くを海外で行っているため、海外事業所においても、国内事業所と同様に環境負荷データを把握しています。

2010年度時点で生産設備を持ち、環境負荷データを把握している事業所についてのみ記載します。

会社・事業所名	エネルギー使用量							
	電力(万kWh)	A重油(kL)	LPG(t)	LNG(t)	都市ガス(千m ³)	軽油(kL)	灯油(kL)	合計(原油換算kL)
ミツミ電機 本社	437	0	0	0	343	0	0	1,482
厚木事業所	4,093	0	0	0	645	18	0	10,917
秋田事業所	231	0	2	0	0	0	0	575
山形事業所	791	112	0	0	0	0	6	2,080
水戸分室	41	0	0	0	0	0	0	102
九州事業所	98	0	5	0	0	0	0	250
千歳事業所	6,917	0	0	0	855	2	5	18,153
国内合計	12,608	112	7	0	1,843	20	11	33,559

台北ミツミ股份有限公司	142	0	1	0	0	0	0	352
台湾ミツミ股份有限公司	1,108	0	0	0	0	0	0	2,748
ミツミフィリピン	1,909	2,192	0	0	0	0	0	6,948
セブミツミ	8,164	30	0	0	0	1,299	0	21,537
ミツミテクノロジーマレーシア ボンティアン工場	581	0	0	0	0	0	0	1,441
ミツミエレクトロニクスマレーシア バトバハ工場	831	0	0	0	0	0	0	2,061
珠海ミツミ電機有限公司	2,811	0	0	0	0	240	0	7,204
青島ミツミ電機有限公司	1,557	2	0	34	0	80	0	3,989
天津ミツミ電機有限公司	1,873	0	24	0	0	32	0	4,708
呉江ミツミ電子有限公司	664	138	65	0	0	0	0	1,872
タイミツミ	392	0	0	0	0	0	0	972
海外合計	20,032	2,362	90	34	0	1,651	0	53,832
ミツミ電機グループ合計	32,640	2,474	97	34	1,843	1,671	11	87,391

CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	水使用量			OA・印刷用紙 使用量 (千枚/A4換算)	代替フロン 使用量(t)	廃棄物発生量(t)	最終処分量(t)	再資源化率(%)
	上水(千m ³)	地下水(千m ³)	合計(千m ³)					
2,798	24	0	24	3,746	0	73	0.00	100.0
18,630	0	601	601	1,738	0	465	0.96	99.8
1,092	2	20	22	412	0	67	0.19	99.7
4,045	22	100	122	640	0	60	0.00	100.0
174	0	8	8	73	0	15	0.00	100.0
382	3	0	3	1,163	0	35	0.04	99.9
42,606	11	819	830	—	0	670	1.36	99.8
69,727	62	1,548	1,610	7,772	0	1,385	2.55	99.8

906	3	0	3	260	0	39	8	80.1
7,045	0	35	35	489	0	125	0	100.0
15,602	122	0	122	2,417	2	885	4	99.6
44,741	0	642	642	5,971	2	2,415	517	78.6
3,314	20	0	20	209	0	161	14	91.1
4,738	44	0	44	418	0	305	1	99.6
13,296	361	0	361	2,625	0	959	0	100.0
11,964	131	0	131	29,481	0	374	2	99.5
14,178	132	0	132	1,980	0	697	27	96.1
5,081	57	0	57	950	0	96	10	90.0
2,451	0	10	10	467	0	39	5	86.2
123,316	870	687	1,557	45,267	4	6,095	588	90.4
193,043	932	2,235	3,167	53,039	4	7,480	591	92.1

ミツミ電機のワールドワイドネットワーク

MITSUMI's Worldwide Network



天津三美電機有限公司



青島三美電機有限公司



吳江三美電子有限公司



台湾三美股份有限公司



珠海三美電機有限公司



タイ ミツミ



ミツミテクノロジーマレーシア バトバハ工場



ミツミテクノロジーマレーシア ポンティアン工場



ミツミ フィリピン



台北美上美股份有限公司



千歳事業所



山形事業所



秋田事業所



セブ ミツミ



九州事業所



厚木事業所



本 社



ミツミ電機株式会社

本社 〒206-8567 東京都多摩市鶴牧 2-11-2 TEL:(042)310-5333大代表 FAX:(042)310-5168

MITSUMI ELECTRIC CO., LTD.

Corporate Headquarters 2-11-2 Tsurumaki, Tama-shi, Tokyo 206-8567, Japan
TEL:(042)310-5333 FAX:(042)310-5168

<http://www.mitsumi.co.jp/>



※大豆インクを使用しています。
※再生紙を使用しています。
Printed in Japan 1202B8④